

令和元年度目標管理シート

【教育部長 田中 宏幸】

市の目標	将来都市像「人と人 人とみどりが響きあい 笑顔あふれる 東村山」の実現			
部の目標	安心して楽しく学べる学校づくりと市民満足度を高める生涯学習			
部の概要	人員	120人	予算規模	2,291,151千円

【具体的な取り組み】

No.	課名	総計・行革・その他	項目	目標	評価	成果又は課題
1	教育総務課	その他	中学校屋内運動場空調設備調査事業	中学校屋内運動場の現状を調査し、空調設置の実現性や効果について把握する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ●令和元年9月に中学校7校の屋内運動場の現状及び空調設備設置の実現性や効果についての調査が完了し、今後の空調設置に向けた検討材料を得ることが出来た。 ・平成31年4月に入札を行い、令和元年9月に調査が完了した。
2	学務課	その他	中学校給食（スクールランチ）試食会の実施	中学校給食（スクールランチ）への理解促進の取組みとして、市内小学校15校の6年生を対象に試食会を行う。	A	<ul style="list-style-type: none"> ●令和元年11月1日より令和2年1月31日までの期間に15校で試食会を行った。 ●食材本来の味を生かした栄養バランスの取れた給食であることをより理解してもらう必要がある。 ・アンケートの結果、「試食してよかった」は92.3%であったが、味については「おいしい」が61.6%であった。
3	指導室	総計	成績処理支援システムの導入	東村山市立小学校において成績処理支援システムの導入に向けた準備を進める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ●市立小学校全校に校務支援システムを導入した。
4	指導室	総計	コミュニティ・スクールの導入	「東村山市型コミュニティ・スクール」を導入している市立小学校2校において、「東村山市型学校運営協議会」を開催することで、学校と保護者、地域住民等が一体となって学校運営の改善並びに児童・生徒の健全育成に取り組む。	A	<ul style="list-style-type: none"> ●回田小学校で4回、青葉小学校で6回、学校運営協議会を開催した。 ・市立小・中学校、保護者、地域に事業の趣旨をご理解いただき、実施校を拡充することが課題である。

No.	課名	総計・ 行革・ その他	項目	目標	評価	成果又は課題
5	子ども・ 教育支援 課	総計	自閉症・情緒障害特別支援学級整備事業	特別な教育的ニーズに応じた多様な教育の場の充実を図るために、令和3年4月の萩山小学校への開級に向けた検討・準備を行う。併せて、中学校への設置について方向性を決定する。	A	<ul style="list-style-type: none"> ●準備委員会を令和元年8月、11月と2回開催し、開級に向けた検討を行った。 ●中学校への設置については、東村山第四中学校への開級を決定した。 ・自閉症・情緒障害特別支援学級に関する基礎知識を共有、必要な支援(指導面や施設面)を確認し、青梅市への視察を行った。 ・施設面の見通しもついたことから令和4年4月の東村山第四中学校への開級に向けた検討・準備を行うこととした。
6	子ども・ 教育支援 課	総計	不登校対策事業	不登校児童・生徒及びその傾向にある児童・生徒の未然防止及び早期問題解決に向け、個々の状況に応じた対応を図り、一人でも多くの不登校児童・生徒の状態の改善を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> ●不登校等児童・生徒個人支援票を刷新しスクールソーシャルワーカーと小・中学校との連携及び不登校に係る情報収集を的確に行えた。これに応じて児童・生徒本人や家族、関係機関に働きかけを行った。 ・スクールソーシャルワーカー対応件数、225件、3573回 ●希望学級指導員に対する研修会を実施した。 ●希望学級が企画する不登校に係る講演会・研修会を実施した。 ・希望学級指導員研修会計6回 ・市民向け、教員向け、希望学級利用者向けに計3回、うち1回は不登校に係る親の会との協働事業で実施。 ・希望学級登録人数122名 ●希望学級分室ほーぷを運営し、希望学級にも通級しにくい児童・生徒を支援した。 ・ほーぷ登録人数8名

No.	課名	総計・ 行革・ その他	項目	目標	評価	成果又は課題
7	社会教育課	総計	八国山芸術祭	市内の文化・芸術活動に取り組める環境を一層充実させ、学習成果を発表するための機会創出の一環として「八国山芸術祭」を3年ごとに開催する。	A	<p>●令和元年11月23日・24日に八国山芸術祭を開催し、文化芸術活動に取り組んでいる児童・生徒の日頃の成果を発表する機会を創出した。（ホール：23日、展示：23・24日）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・来場者は延べ1,110人であった。 ・部活動の発表の他、作品の展示においては、都立特別支援学校、市内小・中学校特別支援学級の児童・生徒の作品展示を2日間行うことで多くの市民の方に披露することができた。 ・東京2020オリンピック・パラリンピックにおいて、中国のホストタウンであることから、諸外国の方々にオープニングでラインダンスを披露していただきオリンピック・パラリンピックの気運醸成を図った。
8	図書館	その他	オリンピック・パラリンピック理解促進	<ul style="list-style-type: none"> ・東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて、各種理解促進事業を行う。 ・学校でのオリンピック・パラリンピック教育への資料提供等の支援を行う。 	A	<p>●オリンピック・パラリンピックの理解促進をテーマとした図書展示を全館で実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常設展示書架のある中央館は年間で3回の展示替えを行い、地区館は各館で2～5回の展示を実施した。 ●学校に対しては、オリンピック・パラリンピック関連資料の貸出や調べ学習に活用できるワークシートの提供等の支援を行った。 ・夏休み期間には、ワークシートを使った調べ学習事業「調べよう！オリンピック・パラリンピック」（小・中学生対象）を各図書館で実施した。 ・事業周知は市報・ホームページ等のほか、学校を通して対象の児童にチラシを配布した。

No.	課名	総計・ 行革・ その他	項目	目標	評価	成果又は課題
9	公民館	行革	公民館の運営形態の見直し	多様化する利用者のニーズに対応できる公民館のあり方・運営形態を検討すると共に、一層の公金管理の適正化手法について研究を進める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ●公民館運営審議会での審議を踏まえ、令和2年度に、市内事業者と協働で廻田公民館の立地を生かした市民講座を事業化した。 ●公金管理の適正化を図るためセルフレジの導入について研究を行った。
10	ふるさと歴史館	総計	下宅部遺跡出土漆工資料の国重要文化財指定に向けた取り組み	国重要文化財指定候補である、「国重要考古資料」に選定されている下宅部遺跡跡漆工関連遺物等の資料について、当該指定に向けたさらなる取り組みを推進するとともに、市民や市職員の下宅部遺跡への理解、認識を深める。	A	<ul style="list-style-type: none"> ●「下宅部遺跡出土品」392点が令和2年度に国の重要文化財に指定される予定である。 ●以下の取り組みを行った。 <ul style="list-style-type: none"> ・下宅部遺跡出土品調査カード作成 ・考古と自然のコラボ講座を5回開催、1回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止 ・東村山考古学講演会1回開催、2回は新型コロナウイルス対策で中止 ・市職員への説明会実施 ・市外の歴史館等へ資料貸し出し（4件）し、市ホームページ等で周知した。